

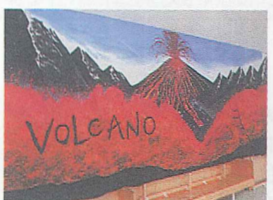
飛躍天満点

学園理事長 小林素文

愛知淑徳高校の「学園祭」の前半を飾る「芸能祭」が、昨年9月台風が接近している中、二日間盛大に開催されました。

自分たちで企画し運営をする芸能祭のために生徒たちは三ヶ月以上も準備をし、舞台や展示作品などを作り上げました。

教室一杯に工夫を凝らして作る展示作品は、最優秀賞を勝ち取った『火山』だけでなくいずれも素晴らしく、解説してくれる生徒も物おじせず堂々たるものでした。



舞台では、三年生が演じるミュージカ部門で最優秀賞の『グランドホテル』をはじめ、観客に感動を与える作品ばかりでした。

大学受験を控え、限られた時間で集中し団結したことにより、このような完成度の高いミュージカルを作り上げた三年生たちに心よりの拍手を贈ります。野外広場ではダンスやバンドのパフォーマンスがあったり、模擬店では工夫を凝らしたテイクアウトに行列ができたり、秋の素晴らしい二日間でした。

* 芸能祭はいつから始まったのでしょうか。

一九〇五年に開校された愛知淑徳女学校は翌年の五月一七日に愛知県で最初の私立の『高等女学校』として文部省から認可を受けましたが、その五月一七日を創立記念日

と定めたのは一九〇九年のこと。その年の創立記念日での君が代斉唱、勅語奉読、校長訓話に続いて催された「祝賀文芸会」が淑徳初の芸能祭といえましょう。今から百十一年前のことです。

「文芸会」は「学芸会」と名を変えつつ毎年の恒例行事となっていました。

当時の演目は、「合唱」「朗読劇」「箏曲(琴の合奏)」「染色(染色についての理科的、家庭的発表)」などで、今とは違いますが、生徒たちが泣いたり笑ったりしながら、一心に舞台を作りあげていたことに変わりありません。

しかし、時代に暗雲が垂れこみ、戦争となり、そして終戦後の混乱。当たり前の学校生活ができない時代を経て、戦後三年目の一九四七年の七夕祭に、ようやく学芸会が再開。その嬉しさからか翌年の雛祭にも学芸会がおこなわれました。

敗戦で誰もが貧しく、生きるのに必死な時代、生徒たちが澁淵と演じる学芸会に、生徒たちだけでなく父兄のみならずや教職員も、希望を感じたことでしょう。丁度、戦後間もなくはやった流行歌「赤いりんごに唇よせて…」で始まる『りんごの唄』に日本中が希望を抱いたように。

七夕祭、雛祭に合わせて催された学芸会は三年間続きます

したが、「夏の七夕祭に、満席の人たちが暑くてたまらない講堂で長時間見ていただくのは申し訳ないので、雛祭の頃に二回行いたい」との戦後発足した生徒会の意向により、雛祭の頃の二日制となりました。

「学芸会」はその後「演劇コンクール」「芸能祭」と名を変えつつ、高校卒業式前の二月中旬に行われるようになり、一九五八年から「芸能祭」と「体育祭」を合わせた「学園祭」として、秋に挙行されるようになりました。

「演劇部門」だけであった芸能祭に一九六三年には「音楽部門(合唱)」が追加。一九六五年に「模擬店」、一九六六年に「展示部門」、一九七八年に「ミュージカル部門」、一九八一年に野外ステージでのバンドやダンスが加わり、さらに、一九八二年からはメインテーマボード作成されるようになり、今日に至っています。

* 生徒たちが工夫をこらしたメインテーマは時代を反映しています。

一九八〇年代前後は、青春をストレートに謳歌した躍動感あふれるものでした。

『飛べーカモメたち！この一瞬にすべてをかけて』(一九七九年)

『歩め！無限の可能性の中を』(一九八〇年)
『舞いあがれ蝶たちよ、今、淑徳の空高く』(一九八二年)
ちなみに、一九八〇年の学園祭では『淑徳音頭』が作ら

れ、生徒教職員が輪になって踊りました。その歌詞の一番
アーンラ綺麗だ この丘の花は
梅の凜々しく ためらいなしに
冬を抜け出る 健気さ見よや
共に咲くそれ 蒲公英 桃 桜
サテ つつじ 海棠 フリージャー
ソレソレ 淑徳 淑徳
いずれもいずれも 花盛り 花盛り

最近のメインテーマには今の若者らしいセンスを感じま
す。

【Lilac】(二〇一六年)

「青春の喜び」「無邪気」の花言葉通り、青春の真つただ
中で花のように咲き乱れる力強い淑徳生を表現

【NEVERLAND】(二〇一七年)

淑徳生一人一人が夢のような舞台を作り上げ、来ていた
だく観客の皆さんに夢のような世界を感じてもらえるよう
に

【天真飯】(二〇一八年)

「天真爛漫」に飾らず自分のままをだしてという
との想いと、卵に熱々のご飯が包まれた「天津飯」を掛け
た表現

*

学園の周年行事がおこなわれる年には、それにふさわし
いメインテーマを掲げ盛大に祝ってくれました。

『時間よ語れ熱く』

八〇周年(一八八五年)に生徒たちが考えたテーマアピ
ルは崇高です。

過去があるから 現在がある。

現在とは時間の流れの中の一瞬の光

時間とは これら一瞬の光の集まり

そして未来は現在のこの輝きを

大切にすることで みえてくる。

輝きを—時間を—語ろう、熱く！

そうすれば 時間もまた

私達を語ってくれる……

『淑徳90祭 御覧あれ』

九〇周年(一九九五年)はこの
テーマで、六階建の大アリーナの
外壁を鮮やかな虹色の七色の布で
飾った見事なラッピングアートを
生徒たちの手で制作してくれまし
た。



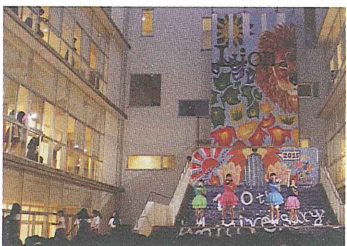
『飛躍天満点』



記念すべき百周年(二〇〇五
年)には「伝統を受け継ぎ、さ
らなる飛躍を」との想いで盛大
に祝ってくれました。
生徒たちが作り上げた縦一〇
メートル、横二〇メートルの淑
徳の制服を着た大アリーナの景
観は圧巻でした。野外ステー
ジでは歴代制服のファッションショ
ウ。模擬店では淑徳
の「s」マーク入りの金太郎飴や百周年オリジナル焼き印
があるどら焼きなどを百円で販売。フィナーレは割れたく
す玉からテーマが描かれた垂れ幕が降り、鳩が天高く飛躍
『飛躍天満点』の芸能祭でした。

【Lion】

百十周年(二〇一五年)のテー
マの由来は「百十周年を機に、百
獣(ひゃくじゅう)の王ライオン
のごとく力強く躍動することを目
標としました。本来の綴りである
Lionにiを一つ重ねたデザインは
【lio】の部分が一〇周年を想起



させました」とのこと。

見事なライオンの看板
アートを背景にした野外
ステージでの後夜祭は達
成感にあふれていました。

*

間もなく愛知淑徳の
百十五年目が終わります。
明治の時代から今日まで
「文芸会」「学芸会」「演
劇コンクール」「芸能祭」
と名は変われど、いつの
時代も生徒たちが泣いた
り笑ったり、ときにけん
かしながら、作り上げる
舞台は一回だけのもの、
巨大アートも展示も二日
だけ。そのはかなさゆえに、より純粋な思い出となってい
くのでしよう。

戦争の足音が迫るころから戦中そして戦後しばらくは、
学芸会ができなかったことを思うと、当たり前前に芸能祭が
行われることに感謝し、生徒たちが生き生きと澁刺と学校
生活を送ってくれることを願うばかりです。

